

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.180

2014/11/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

紅葉の山門水源の森に130名集う

滋賀県主催・山門水源の森現地交流会



四季の森で(14/11/16)

PHOTO BY H.ITO

11月16日(日)滋賀県主催「山門水源の森現地交流会」が一部の基調講演・サントリーホールディングス株式会社エコ戦略部チーフスペシャリスト山田健氏『生態系ピラミッドが教えてくれることー森林整備と生物多様性ー』(於:西浅井公民館)、二部は山門水源の森観察ツアー(四季の森コース・湿原コース・保全活動視察コース)が実施されました。



山田氏

西浅井公民館での基調講演

第1部参加者129名・第2部参加者120名という盛況(会員も含む)でした。山田氏の講演は、森林整備(環境保全)には、「生態系ピラミッド」を念頭に置いたものでなくてはならないことを実例を挙げて研究者以外にも理解し易いように話してもらいました。日々保全作業に関わっている私たち会員も改めて生態系ピラミッドの意味を噛みしめたものです。一般参加者へのアンケートでも「この催しに参加出来て非常に良かった」という回答が圧倒的で、大半の方が丁寧なコメントを書いて下さっていました。『保全コースに参加したが、日々山門水源の森を守るボランティアの会の方々のご苦勞に感謝する次第です。リピーターが継続して活動に応援できるような機会をとらえてPRしてもらいたい。1人の100歩より100人の1歩が積み上げられれば「力」は大きいです』(40代女性)。企画した側としてはホッとした次第です。広島・兵庫・奈良・京都・愛知からの参加者もあり、山田氏の講演とともに「山門水源の森」の素晴らしさと保全活動を多くの方に体感して貰えたのはなによりでした。滋賀県主催の「現地交流会」は今回で4回目(基調講演は、森林の話・ビワマスの話・ササユリの話・今回)であったが、各回の森の様子が異なるので一概には言えないが今回がもっとも参加者に好評だったように感じている。紅葉の森が良かったことと、保全がより進んでいること等もあるが、年々自然環境に対する一般の方々の関心が増してきたためとも考えることが出来ます。



西浅井中陸上部チップ敷設(14/10/25)



西宮甲英高等学院チップ運び上げ(14/10/29)



山門老人会刈り払い作業(14/11/06)



レイカディア大学32期生浚渫作業(14/11/07)



西浅井中2年生ササユリ播種作業(14/11/11)



チップ敷設した観察コース(14/11/14)



ヒノキの森から上部の枝打ち(14/10/25)



沢道コースの木橋の架け替え(14/11/02)

多くの協力者があればほど森が護れる

整備が進むと観察もし易いし
これからの課題も見えてくる

多種多様な保全活動を日々行っていますが、その担い手は会員・森林キーパーは言うまでもありませんが、多くの協力団体です。チップの運び上げ作業などは、会員やキーパーが1日必死で持ち上げてもその数は知れています。しかし、50人もの中学生が協力してくれると1回に50袋も持ち上げてくれます。こうした本会の活動を支えてくれるみなさんに感謝・感謝です。現地交流会の参加者から保全活動が行き届いているとの賛辞を沢山頂きましたが、これも協力して頂いたみなさんの汗のおかげです。明日からまた次の保全活動に精進したいと思います。